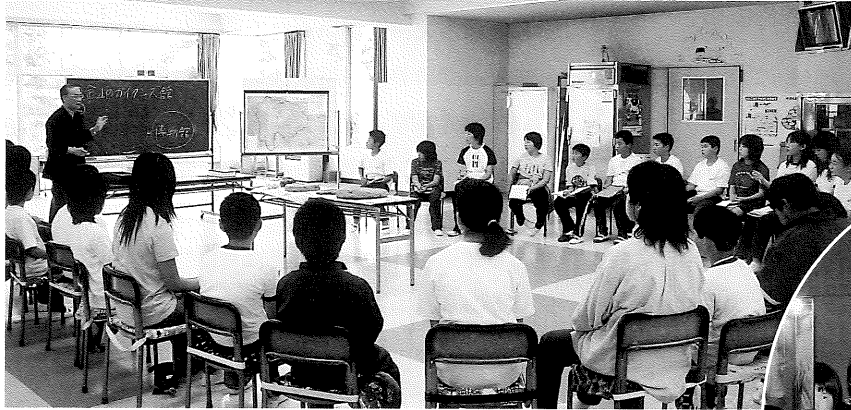


博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



下部小学校（6年生） 出前博物館 6月12日



下部小学校（3年生） 総合学習 6月24日



久那土小学校（3・4年生）
春の遠足 5月30日

ぼくたち、わたしたちの町には どんな歴史があるんだろう

もうすぐ夏休みです。新学年、そして新しく勉強することにも随分慣れてきたころでしょうが、そんな中で2～3年前から県内外の小中学校の県内研修や遠足など教育現場での利用がありました。博物館側でもニーズに沿って対応してきましたが、ここ最近はこうした利用が特に増加傾向にあり管内小中学校での利用も活発になりました。「町内史跡めぐり」や「出前博物館（本文記事5ページ）」もその一つです。

こうした時間を通して自分の住んでいる町の歴史や特徴を少しずつでも分かってもらう一助となることも地域博物館としての大きな役割です。

下部は魅力ある町

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷 口 一 夫

去る6月22日、青少年育成下部町民会議総会で講演する機会を頂き「見直そう下部の自然と歴史遺産」（地域活性化を考える）と題しお話しさせて頂きました。以下はその要旨に加筆したものです。

原点は地域が自慢できること

地域青少年育成の原点は、まず「大人が下部町という地域を知り、地域の良さを知り、地域を愛し、地域が自慢できること。」それを次世代の青少年に伝えることです。

生まれ育った町の良さを誇りに思い、自慢することは地域にオーラが出ますから、青少年育成の効果とともに下部町の活性化にもつながります。

大人が「下部町は山ばかりで駄目だ〜」とか、「何もない町だから駄目だ〜」とかが、日ごろの口癖だったら、本当に駄目になってしまいますね。これでは子供（町民）も年々町を離れてしまいます。良さを発見して、伝えていく努力が必要です。

考え方一つで町は変わります

しかも下部町には町民の皆様が思っている以上に自慢できるすばらしい自然や歴史がたくさんあります。

それらの遺産を再認識して町の活性化につなげることは、在るものを有効活用するということなので、お金をかけなくても考え方一つで変えられます。問われることは「その気持ちがあるか」ということだけです。下部町の子供を立派に育成し、活力ある町にしたいという気持ちがあれば、実践してみる価値があるでしょう。

全国へ自慢できる下部の自然と歴史

下部町が全国へ自慢できる自然や歴史遺産はたくさんあります。

まず自然遺産から見てみましょう。富士五湖の一つ本栖湖の半分が下部町にあります。町内で知らない人はいないと思いますが、県内では知らない人が結構います。「5千円札の富士と本栖湖」の撮影ポイントは下部町にあります。この景観は新札にも引

き継がれます。それだけ素晴らしい景観です。5千円札を見ながら話題にするだけでも、下部町に関心が集められます。一度行ってみようにつながります。

国道300号は「下部いろは坂」

その本栖湖から下部へ下る坂道（国道300号）は、私は心の中で「下部いろは坂」と命名しています。新緑、紅葉の季節の景観はまさに絶景です。

途中南アルプス展望台からの景観は大いに自慢して欲しいポイントです。噂が噂を呼べば、富士五湖の観光客が下部町へ下りてくるでしょう。

すると途中には「下部農村文化公園・しもべ道の駅」があり、ふるさとの産物に出会えます。公園のホタルドームでは蛍の育成など一年中、学習できます。また「下部温泉に入っていこう」「泊まろう」という方も出てくるでしょう。

トレッキングでも注目

下部町の北端～東端にかけては蛾ヶ岳（1,279m）、三方分山（1,422m）、竜ヶ岳（1,485m）、毛無山（1,964m）の山梨百名山が4つもあり、トレッキングを楽しむ方が増えています。いずれも富士山や南アルプスの景観が楽しめます。

JR東海が力をいれてPRしていますが、肝心の町民が無関心だったら意味がありません。

四季折々の季節が楽しめる五老峰

下部町の中心には五老峰（1,600m）があります。身近に山があるということは四季折々の景観が身近で楽しめるということです。若葉は下から上へ、紅葉は上から下へ変化する季節の美しさは正に絶景です。博物館への来館者も一様にその美しさを言葉にします。下部温泉に来るお客さんの多くはこの季節感と景観に触れ、癒しに来る方が多いようです。町民の一人ひとりが、遠くの友人や知人に、この話をすれば、必ず下部へ出かけて来る方が多くなるでしょう。

著名な作家や俳人がこの下部の美しい自然を拠点に活動されたこともうなずけます。

恵まれた山の幸、川の幸

山へ一歩入ると美しい渓谷があり、そこは、また山の幸、川の幸に恵まれています。蛍の季節も大変すばらしく観る人の感動を集めています。

自然は最大の教材

自然は最大の学習教材ですから、地域に住む大人が子供に知恵を継承させる絶好の場です。中山間地の魅力を大人と子供で活用することが大切です。

深い歴史をもつ湯町

歴史遺産もたくさんあります。古いところから見ますと、平安時代に建立された熊野大権現社があります。1100年以上昔のことですが、当然、下部の湯治場の成立が背景に考えられます。日蓮聖人が身延山久遠寺を開山されたのが約750年前ですが、その時、房総（千葉）から女性信者が日蓮聖人のところへ行き「下部の湯治場へ来たついでに来ました」と言うので「ついでとは何か、ということで追いつた」という日蓮の手紙が残されています。

その時代には既に下部の湯治場は全国的に有名だったと思われる。

歴史根柢がない「信玄の隠し湯」はほどほどにして「豊かな自然遺産」と「深い歴史遺産を活かした」『由緒ある湯町づくり』をされた方が、湯町の活性化に直結するでしょう。

世界に通じる湯之奥金山

また、500年前には、湯之奥金山が開発され200年もの間で、産金活動が行われました。

五老峰（常葉金山）、内山（内山金山・茅小屋金山）・毛無山（中山金山）の山並は、身延町下山方面からみると「蝙蝠山」と呼ばれ、蝙蝠が羽を広げた神秘的な景観をしています。下部町の皆様はご覧になったことがありますか？

この景観と歴史は「世界遺産」登録も夢ではありません。この蝙蝠山こそが、戦国時代の湯之奥金山の全容です。日本における砂金に代わる山金の初源的形態を持つ山金山として中山金山は「国指定史跡」に指定されています。すごい金山の歴史を持っています。

そのガイダンス館が湯之奥金山博物館で、日本の金山史研究の拠点になっています。金山博物館はこのほかいろいろな役割を担い活動しています。

増え続ける有料入館者

金山博物館の有料入館者は毎年増え続けています。またうれしいことに、ここ1箇月の間に日本の著名な歴史学者が続けて来館しています。永原慶二、小和田哲男、村上直先生らです。各先生とも大変感動されて、さっそく講演会や講義で金山と博物館のことをお話しします、という有難い言葉をいただいています。

町民の皆様も金山や博物館を自慢してください。私は県や各市町村関係の仕事がたくさんしていますが、そこで会う多くの皆さんから「下部って凄いですね」と言われます。当然「凄いですよ」「凄いですよ」と応えています。

町村長さんの何人かは「金山博物館」へ行きたいと言ってくれています。町民の皆様も他の町の方から下部は凄いですねと言われたことはありませんか？その時は自信を持って、「凄いですよ。どうぞいつでも下部へ来てください。」と答えてください。

人が来れば町は活性化します。人が寄りつかないところは衰退します。

大事は小事から成す

「大事は小事から成す」といいますが、小事は博物館の日常活動として捉え、開館から今日まで館職員全員が神経を集中して頑張っています。毎年、有料入館者が増え続けている背景には、職員全員が自信をもって下部のこと、金山や博物館のことを自慢しているからです。「また来よう」「また来ます」という言葉を聞くと疲れがふっと消えます。

町民あげて自慢したい木喰上人

さらに285年前には下部町丸畑で木喰上人が誕生、45歳で木喰戒を受け、56～93歳まで長く厳しい自己追求の旅を続け、この間各地へ残した木喰仏は微笑仏として親しまれています。先般、小泉純一郎総理が国会の答弁で「まるまると、まるめまるめよわが心、まん丸丸く、丸くまん丸」とおだやかで、こだわりのない修行僧「木喰上人」の歌を引用しましたが、この生誕の地と木喰上人、木喰仏、遺品はもっともっと世に出せる下部町の財産です。

木喰上人生誕の地、生誕のお宅と木喰微笑館で木喰上人に触れていただくことが出来ます。

以上は、下部町の「宝」です。「誇り」です。

活動報告

平成15年度 運営委員会開催

5月27日(火)

当館には運営委員会が設置されており、年2回会議が開催されます。

去る5月27日、平成15年度第1回運営委員会が開催され、新委員の委嘱式の後、前年度の年間事業活動や、実績報告、そして今年度の運営方針などについて長時間にわたり協議がなされました。

運営委員会は、博物館の運営方法や展示計画などについて調査研究を行い、その内容を館長に提言す

るという任務どおり、今後の博物館の在り方や運営に対し、大きな参考になる活発な意見交換が行われました。

今年度は新規運営委員として矢崎崇氏、渡辺美雪氏に加わっていただき、学術面だけでなく、観光的な面からも意見を頂くことが出来ました。

平成15年度運営委員は下表のとおりです。



職名	氏名	住所	選出区分
委員長	萩原三雄	甲府市	考古学研究者
副委員長	今村恵一	下部町	町文化財審議会会長
委員	笹本正治	松本市	考古学研究者
	十菱駿武	八王子市	考古学研究者
	堀内真	富士吉田市	考古学研究者
	堀内亨	富士吉田市	考古学研究者
	高野敏彦	下部町	町議会議長
	西脇康	武蔵野市	知識経験者
	矢崎崇	下部町	知識経験者
	渡辺美雪	下部町	知識経験者

第6回 企画展終了 3月29日～5月11日

3月末から約1箇月半にわたって開催いたしました第6回企画展「砂金学ノススメ」が終了いたしました。

この企画展は、趣味や自己研究の領域で砂金を採取する方々との交流もあり、寄贈された砂金の点数も増え、せっかくの資料をそのまま収蔵庫へ入れておくのは惜しいということ、またこうした方々の趣味をただの趣味とせず、中世・戦国期から始まる山金採取以前から始まっていた砂金採取の歴史に焦点をあてることによって、一つの学問「砂金学」として体系付けるきっかけになることを期待し開催するにいたしました。

開催に向けては、これまで交流のあった方々に、さらなる資料の借用を了解いただき、砂金サンプル、

道具、金鉱石など合わせて約170点にも及ぶ資料を一堂に集め、今回の展示となりました。

5月の連休をはさんだこの開期中、多くのお客様に御覧いただくことが出来ました。国内外の多種多様な道具、文献から復元したアメリカのゴールド・ラッシュ時代の道具、そして砂金サンプルを前に、「今でも川で、こんなに採れるんですね」、「色々な道具があるんだね」という観覧された方々からの声も多く聞かれました。この企画展を通して、実際に川から採る砂金がどんなものなのか、どのようにして採るのか、現在も砂金採りの人がいるのか、多くの人たちが抱くかねてからの疑問に答えることが出来たようです。

出前博物館

6月12日(木)

当館では、より幅広い博物館活動の一環として、依頼のあった小中学校に出向き、講義をする「出前博物館」を行っています。今年の出前博物館第1回目は、去る6月12日、下部小学校6年生(29人)を対象に行われました。

6年生を前に谷口館長は、歴史を知ることや文化財とは何なのか、身近な例を挙げながら話を始めました。その流れの中で、湯之奥金山での作業や金山衆たちの暮らしぶりなどを、白や鉱石を見せながら、湯之奥が日本で最初に鉱石から金を取り出した場所であること、さらにその採れた金で作られた甲州金は日本で最初の貨幣制度であったことなどを説明し、授業の最後には「せっかく日本を代表するような遺跡が下部町にあるのだから、みんなはこの金山のことを深く知って、下部を知らない人には、すごい金山がここにあるんだ、こんなすごい歴史があるんだということを自慢して欲しい、誇りに持って欲しい」



館長から話しを聞く児童たち

と述べて出前博物館を締めくくりました。

翌日、丁寧な御礼と、授業を聞いて分かったことなどが書かれた、児童それぞれの個性の出た楽しい感想文を受け取りましたが、こうした小さなことが非常に嬉しく感じます。また今後、この出前博物館をより多くの小中学校で活用してもらえればと考えています。

博物館親善大使委嘱

この度、数多くの博物館協力者の皆さんの中から博物館「親善大使」として4人の方に承諾いただき、委嘱式を行いました。親善大使に委嘱された方々は、「今後、博物館のために、広く広報活動をしたいと思います。」と抱負を語ってくれました。



大森直之氏(東京都)



高岡伸五氏(静岡県)左
広瀬義朗氏(神奈川県)右

親善大使に委嘱した皆さんは、静岡・神奈川・兵庫県、東京都などから、ボランティアとして献身的に博物館事業に、日常的に協力していただいている方ばかりです。

館としても大変感謝しています。

金山史研究第4集 発売開始!

かねてよりお知らせしてまいりました公開講座記録集『金山史研究第4集～平成12年度公開講演会と公開講座の記録～』ですが、発売が大幅に遅れ、皆様には御迷惑をおかけいたしました。

奥山コレクションの特別論文に加え、甲州金カラー図版付きのボリュームアップ版ですので、どうぞ御活用ください。

概要については次のとおりです。

書名 『金山史研究第4集
～平成12年度公開講演会と
公開講座の記録～』

体裁 A4版233ページ(カラー図版14ページ)

定価 2,000円(会員価格1,800円)

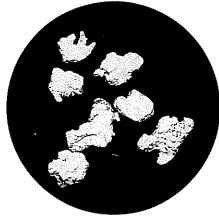
- 1 論文 「甲州金の形態分類」 西脇 康
- 2 平成12年度
産業考古学会鉱山金属分科会共催公開講演会
 - ・「金鉱床と採鉱」 村上 安正
 - ・「茅小屋金山遺跡について」 谷口 一夫
 - ・「戦国時代を推し進めた金属と生産」 佐々木 稔
 - ・「小判の製法と復元」 伊藤 博之
- 3 平成12年度公開講座の記録
 - ・「近世：金貨の時代来たる」 西脇 康
 - ・「江戸時代の黄金・貨幣」 深谷 克巳
 - ・「甲州金から慶長小判へ」 永井久美男
 - ・「金銀銭貨の出土資料」 尾上 実
 - ・「生活の中の金銀貨～江戸時代の価値に迫る～」 加藤 貴

平成14年度入館者は17,403人(平成13年度比1,561人の増)

平成14年度 博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有料入館者				無料入館者	年月	開館日数	区分	有料入館者				無料入館者
			観覧券	体験券	共通券	合計					観覧券	体験券	共通券	合計	
14. 4	28	大人	605	206	264	1,075	14	14. 11	26	大人	898	185	369	1,452	29
		中学生	3	27	181	211				中学生	17	6	8	31	
		小学生	7	55	69	131				小学生	39	43	42	124	
		小計	615	288	514	1,417				小計	954	234	419	1,607	
5	26	大人	745	300	459	1,504	5	12	25	大人	339	107	179	625	15
		中学生	5	15	23	43				中学生	3	3	2	8	
		小学生	33	110	82	225				小学生	9	17	19	45	
		小計	783	425	564	1,772				小計	351	127	200	678	
6	28	大人	630	225	289	1,144	82	15. 1	27	大人	387	103	133	623	5
		中学生	5	11	9	25				中学生	3	5	4	12	
		小学生	9	53	61	123				小学生	10	40	31	81	
		小計	644	289	359	1,292				小計	400	148	168	716	
7	27	大人	438	343	149	930	20	2	25	大人	473	79	92	644	18
		中学生	0	12	14	26				中学生	0	2	2	4	
		小学生	92	49	36	177				小学生	10	27	23	60	
		小計	530	404	199	1,133				小計	483	108	117	708	
8	28	大人	887	832	506	2,225	19	3	28	大人	552	174	315	1,041	9
		中学生	39	109	48	196				中学生	6	52	15	73	
		小学生	440	313	350	1,103				小学生	16	86	67	169	
		小計	1,366	1,254	904	3,524				小計	574	312	397	1,283	
9	26	大人	592	184	349	1,125	14	合計	320	大人	7,219	3,049	3,365	13,633	235
		中学生	3	13	9	25				中学生	96	264	327	687	
		小学生	16	60	62	138				小学生	686	949	1,088	2,723	
		小計	611	257	420	1,288				小計	8,001	4,262	4,780	17,043	
10	26	大人	673	311	261	1,245	5								
		中学生	12	9	12	33									
		小学生	5	96	246	347									
		小計	690	416	519	1,625									

古くから権力や富、不変の象徴として人々をひきつけ、多くの場面で利用されてきた金ですが、古代の人々が利用したのは、金が現地に残留した結果出来上がった砂金鉱床でした。



大陸の砂金鉱床は大規模なものが多く、それゆえしばしば大きな金粒があるため比較的発見されやすく、主な金鉱石の産地として知られるアフリカ、カリフォルニア、アラスカ、カナダ、ロシア、オーストラリアなどでは、1kgを超える金塊が見つかることがあっても不思議ではないと言われるくらいですから、日本の自然金は海外の大きなナゲットと比較すると小さなものが多いと言えるでしょう。

日本の産金の歴史が大陸に比べ遅かったのは、こんな地質的な理由も関係しているのかも知れません。ですから、古代日本において砂金の探索技術と回収技術は、日本人よりも先に金の存在を知っていた大陸の人々の手によって発達し日本に伝えられたのではないかと考えると、我が国の初産金とされる陸奥国の史実に、渡来人の大きな貢献があったということも納得できます。

しかし日本にも小規模ながら地下深く出来た大陸型の鉱床があります。それは宮城県から岩手県にかけての南部、北上山地に分布する金鉱床で、日本がまだアジア大陸の一部だったころの約1億年前に出来たものです。古代から中世にかけて、数百年にわたり日本産金を支えた北上産地の砂金はこうした大陸型の鉱床を源に持っています。それに引き換え、日本最大産金地として知られる佐渡金山は約200万年前に日本がアジアから分かれて島になる変動の時期に噴出し、激しい火山活動に関連して佐渡の島全体に島弧型金鉱床が出現したもので、その一部が削り取られて西三川の砂金鉱床となったものです。ですから異なるタイプの鉱床から採集された金粒を見比べると、砂金そのものの形状や質、大きさなどに特徴が見られることも分かります。

さて、大きさと言うと砂金も塊になるともはや砂

金とは呼ばず、ナゲット (塊) と呼びますが、世界で記録に残っているもので最も大きいとされる天然金塊は、1872年オーストラリアのバイヤーズ&ホルターマン・スター・オブ・ホープ鉱山で発見されたホルターマン金塊です。総重量214kgあり、99.8kgの純金を含んでいました。

最大の純金の金塊は同じくオーストラリア、ビクトリア州で発見された70.92kgの金塊です。「ウェルカム・ストレンジャー」と名付けられ、この金塊の中には69.92kgの純金が含まれていました。

では、記録に残る日本最大の砂金の重量はというと121.5g。これが現存する日本最大の砂金と言われています。明治31年には、北海道ウソタンで砂金が発見、続いて隣町のペーチャンからも砂金が発見されてゴールドラッシュを巻き起こしました。東洋のクロンダイクとまで呼ばれ、まさしく日本のゴールドラッシュ全盛期の明治33年、ウソタンナイで見つかった砂金はなんと205匁、換算するとおよそ769gあり、まさしく日本一の金塊と言われています。しかし残念ながら現存していないため今となってはその姿を見ることはできません。

ウソタンナイの砂金発見後、1904年、宮城県気仙沼市鹿折金山から大金塊が発見されました。当時、新聞でも大きく報道され、世間をにぎわした大金塊ですが、伝えられるところによると2.25kg中に1.875kgの金が含まれていたと言われています。この金は「ナゲット・モンスター (怪物金)」と名付けられ、同年アメリカのセントルイスで行われた万国博覧会出品され、銅メダルを受賞しました。しかしその後、本体は金として使用されたのか、はたまた持ち出されたのか依然として行方が分からず、その所在、行き先などには諸説ありますが、どの説も確証ありません。しかしその金塊の一部は、現在、つくば市の地質調査所の地質標本館に展示されており、本体の約6分の1 (326g) とされるこの標本にかつての“怪物金”の面影を窺い知ることが出来るのです。

(学芸員 小松美鈴)

館からのお知らせ

夏休みプログラム参加者募集!

毎年恒例の夏休み子供向けプログラム、今年もやります。砂金掘り大会とこども金山探検隊。各プログラムの詳細は次のとおりですのでふるって御参加ください。

第3回 砂金掘り大会

期 日：平成15年8月2日(土)

午前9時～午後12時30分まで

※集合・受付8時30分～ ※雨天順延

ジュニアの部（～中学生まで）・初心者の部・
ベテランの部（男女混合）

どなたでも気軽にご参加ください。参加費無料。

第3回 こども金山探検隊

期 日：平成15年8月9日(土)～10日(日)

※雨天決行。

ただし現地見学会のみ中止となります。

参加費：大人1,000円 小人500円

1gの金粒を持ち帰ることが出来ます。

◎申し込み〆切 7月31日まで

公開講座のお知らせ

平成15年度 湯之奥金山博物館公開講座 甲斐金山と鉱床学 ～山金・砂金・芝金を見極めた金山衆の世界～

通算回	期 日	演 題	講 師
第31回	平成15年 10月18日(土)	「武田氏の山金鉱床」の一考察	D・O・C コンサルタント 原 田 明
第32回	11月15日(土)	「戦国期金山衆の自然理解」 ～日本の鉱床地質学の源流～	九州大学 名誉教授 井 澤 英 二
第33回	12月13日(土)	「長尾（甲武信）金山雑考」 ～鉱山と植物～	雲南・チベット民俗学会 会 員 由 井 格
第34回	平成16年 1月17日(土)	「金鶏金山（長野県）の歴史と地質鉱床」	三井金属鉱業総合研究所資源研究室 室 長 五 味 篤
第35回	2月14日(土)	「富士山とあれこれ」 ～鉱床学からちょっと離れて～	県環境科学研究所自然環境研究部 部 長 興 水 達 司

そこで、今年度の公開講座は、現在の地質学・鉱床学で得られている最新の成果に戦国～江戸時代の金山を重ね合わせることで、8世紀ころからの砂金・芝金、そして16世紀ころからの金山採掘を行ってきた金山衆・金掘りたちの鉱床に対する知識・世界を

さらに一步踏み込んで検証出来ると考えられます。

日程は上記のとおりとなり、各回とも土曜日午後2時～4時まで、多目的ホールにて開催いたします。聴講無料となっておりますので多くの皆様の御聴講をお待ちしております。

編 集 後 記

ホテルもゲンジからヘイケへと移り、紫陽花も綺麗に咲きそろいました。花の色が褪せてくるころになると、皆が待ちに待った夏休み。本当にあっという間に月日が過ぎていきます。関東地方が梅雨明け

するのももうすぐ。暑い夏がやってきます。

それぞれがいろんな予定を立てていることですが、博物館でも夏恒例のイベントを開催しますので、こちらへもふるって参加してくださいね。

博物館だより

第25号
平成15年7月15日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
T E L 0556 (36) 0015
F A X 0556 (36) 0003

博物館ホームページアドレス <http://www.2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/>

博物館Eメールアドレス kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp